

第14回松本市西部地域公共交通協議会次第

日 時 平成22年11月1日(月)
午後2時30分から
場 所 議員協議会室

1 開 会

2 あいさつ

3 会議事項

- | | | |
|---------------------------------------|----|---|
| (1) 第13回松本市西部地域公共交通協議会の開催結果について | 資料 | 1 |
| (2) 西部地域コミュニティバスの利用状況について | 資料 | 2 |
| (3) 安曇・奈川・波田地区住民の移動実態調査結果及び今後の進め方について | 資料 | 3 |
| (4) 第5回住民意見交換会の実施について | 資料 | 4 |
| (5) 留め置きアンケート調査等の実施について | 資料 | 5 |
| (6) 各地区における利用促進の取組み例について | 資料 | 6 |
| (7) その他 | | |

4 その他

5 閉 会

第13回松本市西部地域公共交通協議会の開催結果について

1 開催日時

平成22年7月15日(木)
14時00分～15時00分

2 場所

あがたの森文化会館 2階 2-8会議室

3 会議事項

- (1) 第12回協議会の開催結果について(原案どおり承認)
- (2) 西部地域コミュニティバスの利用状況について(原案どおり承認)
- (3) 安曇・奈川・波田地区住民の移動実態調査の実施について(原案どおり承認)
- (4) 西部地域コミュニティバス出発セレモニーについて(原案どおり承認)
- (5) その他
 - ア 時刻表の配布について
 - イ ポイントカードについて
 - ウ 「乗って残す、乗って活かす公共交通」県民大会の開催について
 - エ タウンズニーカーのルート変更について

4 会議で出された主な意見等

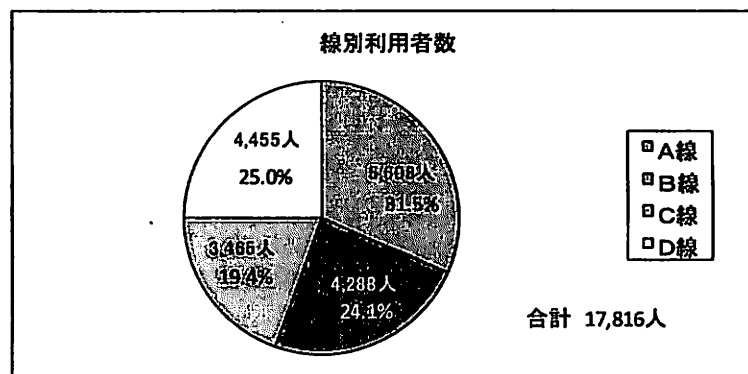
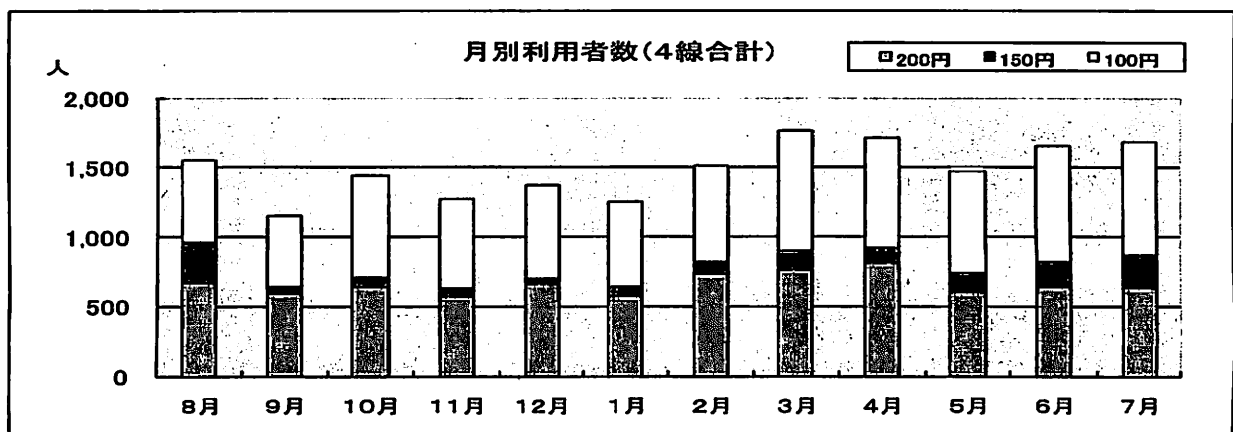
| 項目 | 意見等 |
|----------------------------|--|
| 西部地域コミュニティバスの利用状況について | <p>○通院利用者のデータは分かるか。 ⇒現在のデータはバス運転手が乗降に対して記録したものであるため、細かい事は分からないが、今後、乗込調査等を行うので、その中で調べていきたい。</p> |
| 安曇・奈川・波田地区住民の移動実態調査の実施について | <p>○アンケートの文字が小さく高齢者には分かりづらい。高齢者にも分かりやすいようにしてもらいたい。 ⇒奈川全域を示すためには、この大きさが限界だが、地図に地域の公民館等を入れるなど、分かりやすくしたい。</p> <p>○回収の方法はどうか。 ⇒配布時の封筒に入れてもらい、それを回収する。</p> <p>○アンケートの中にある、料金設定次第で利用の状況も変わってくるが、「一定の移動需要が認められる場合には」とはなにか。 ⇒移動需要が多ければコミュニティバス等で、少なくとも一定の移動需要があれば、それに適した交通方法を検討する。アンケートで需要を確認するが、利用がされない場合の維持は難しい。需要が小さくても一定の利用が見込める地域では、コミバス以外、定時定路以外の地域の事情に合った方法を考えたい。</p> |

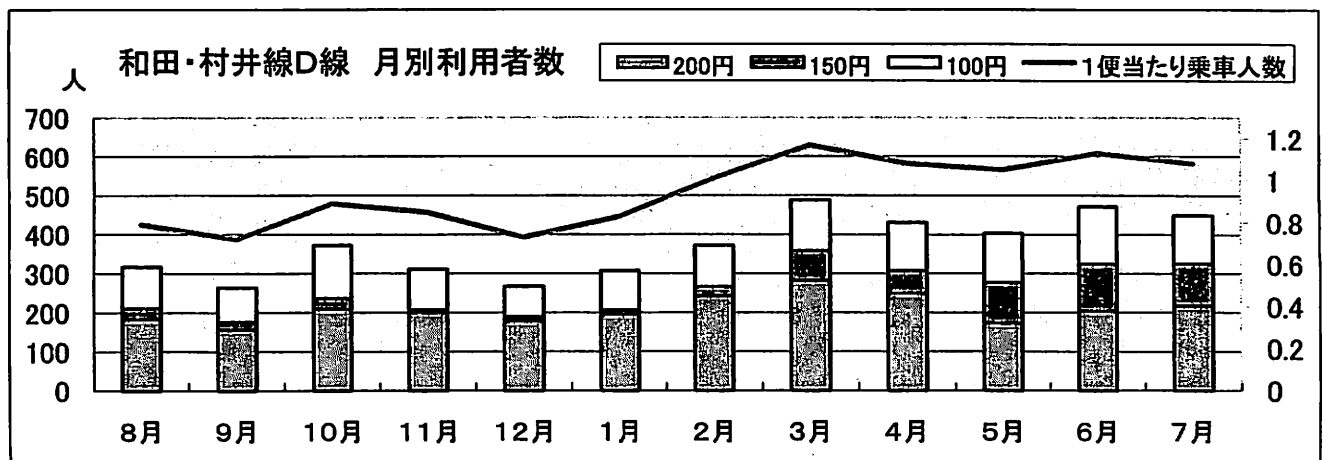
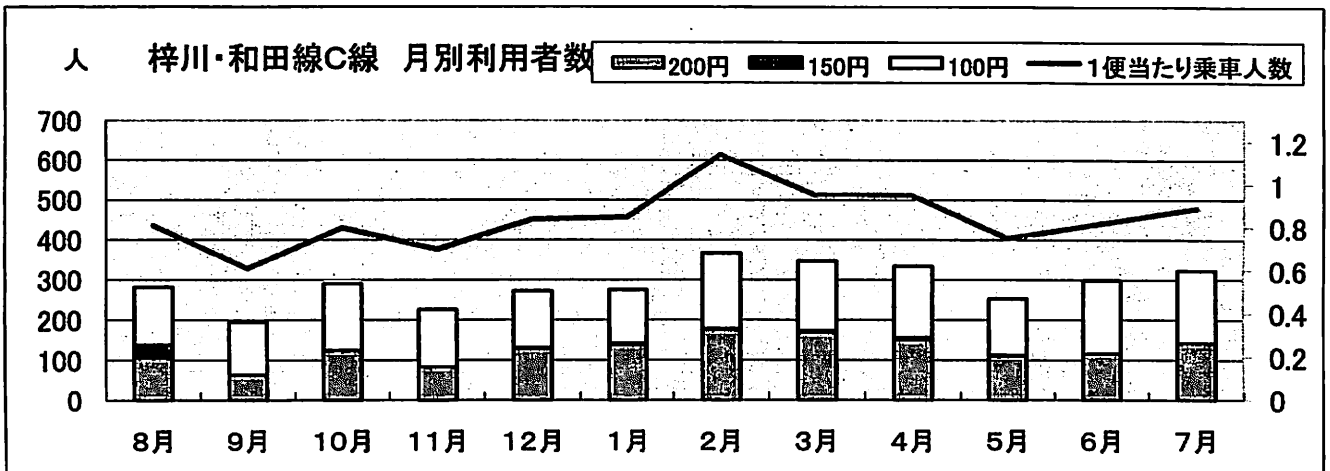
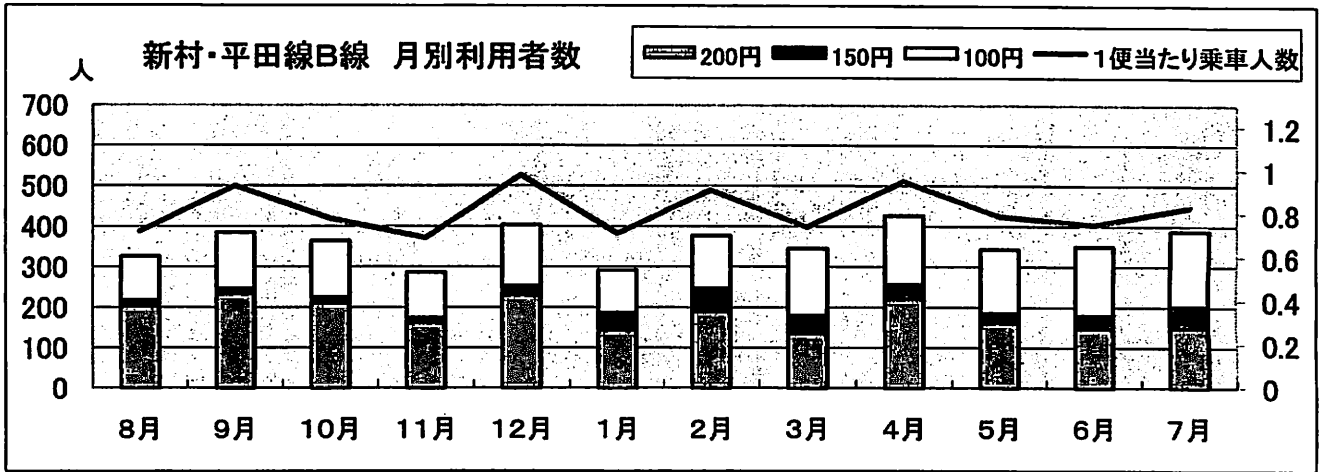
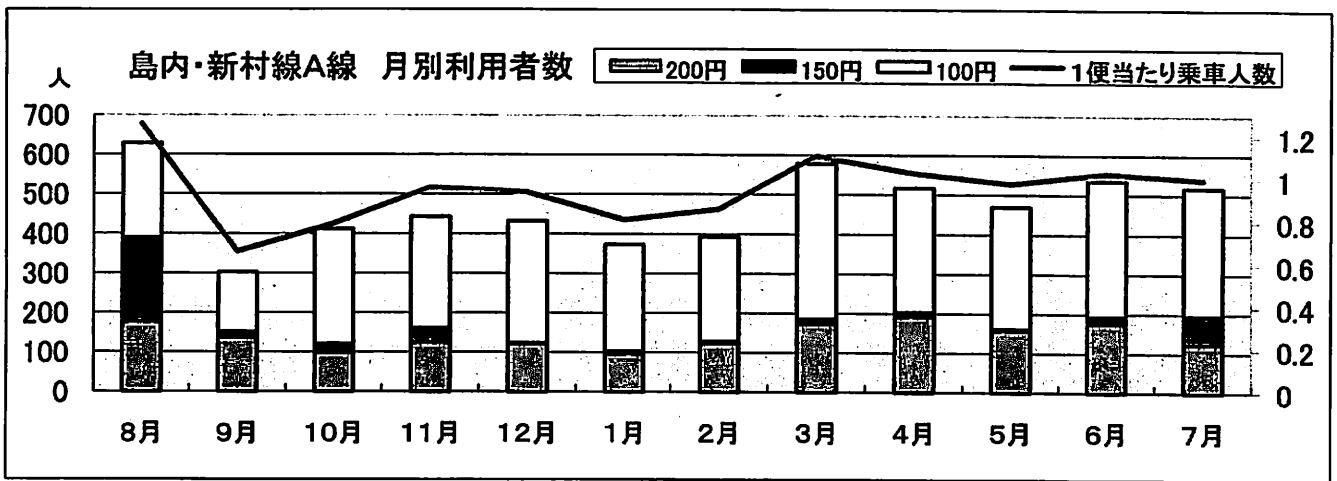
西部地域コミュニティバスの利用状況について

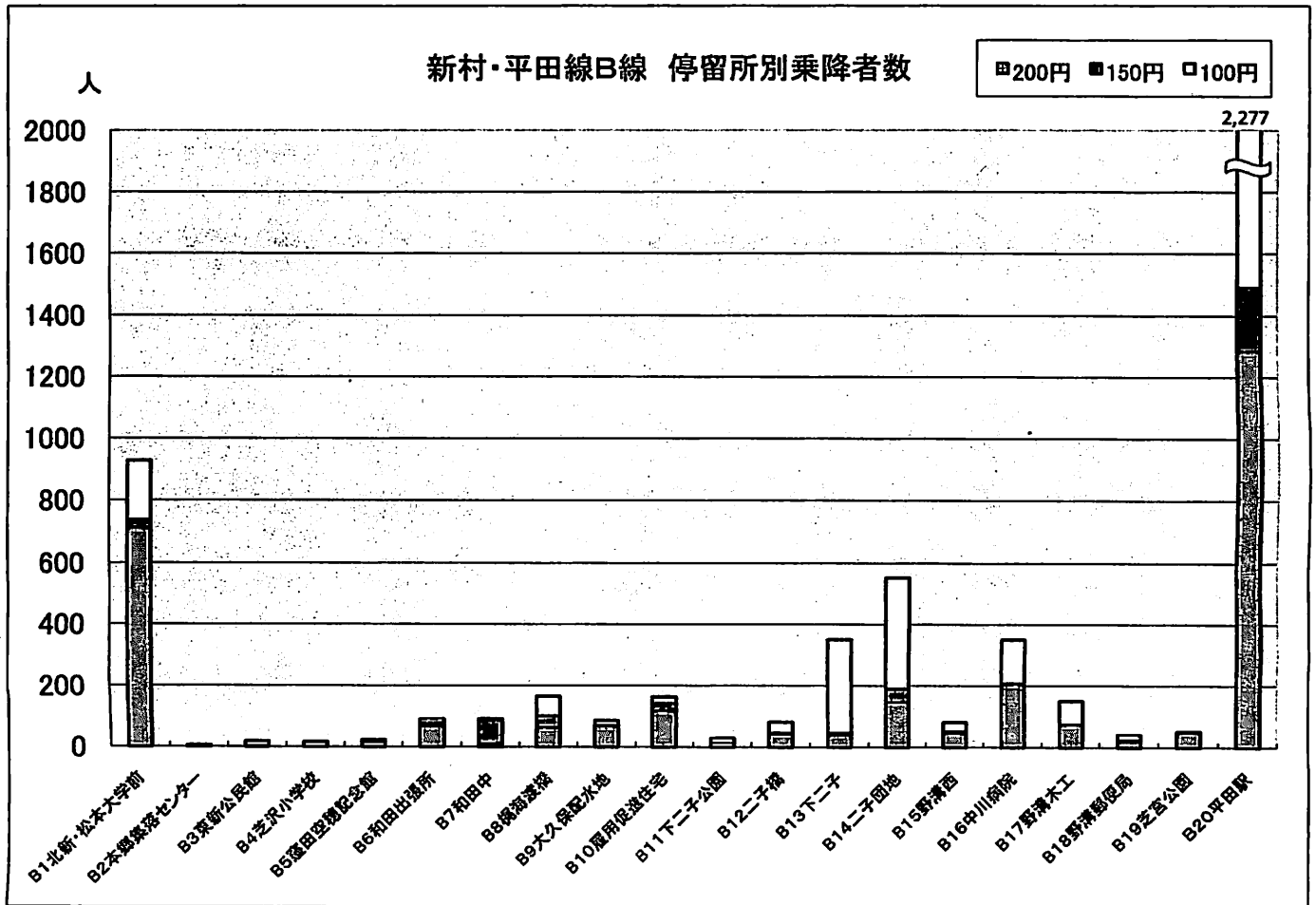
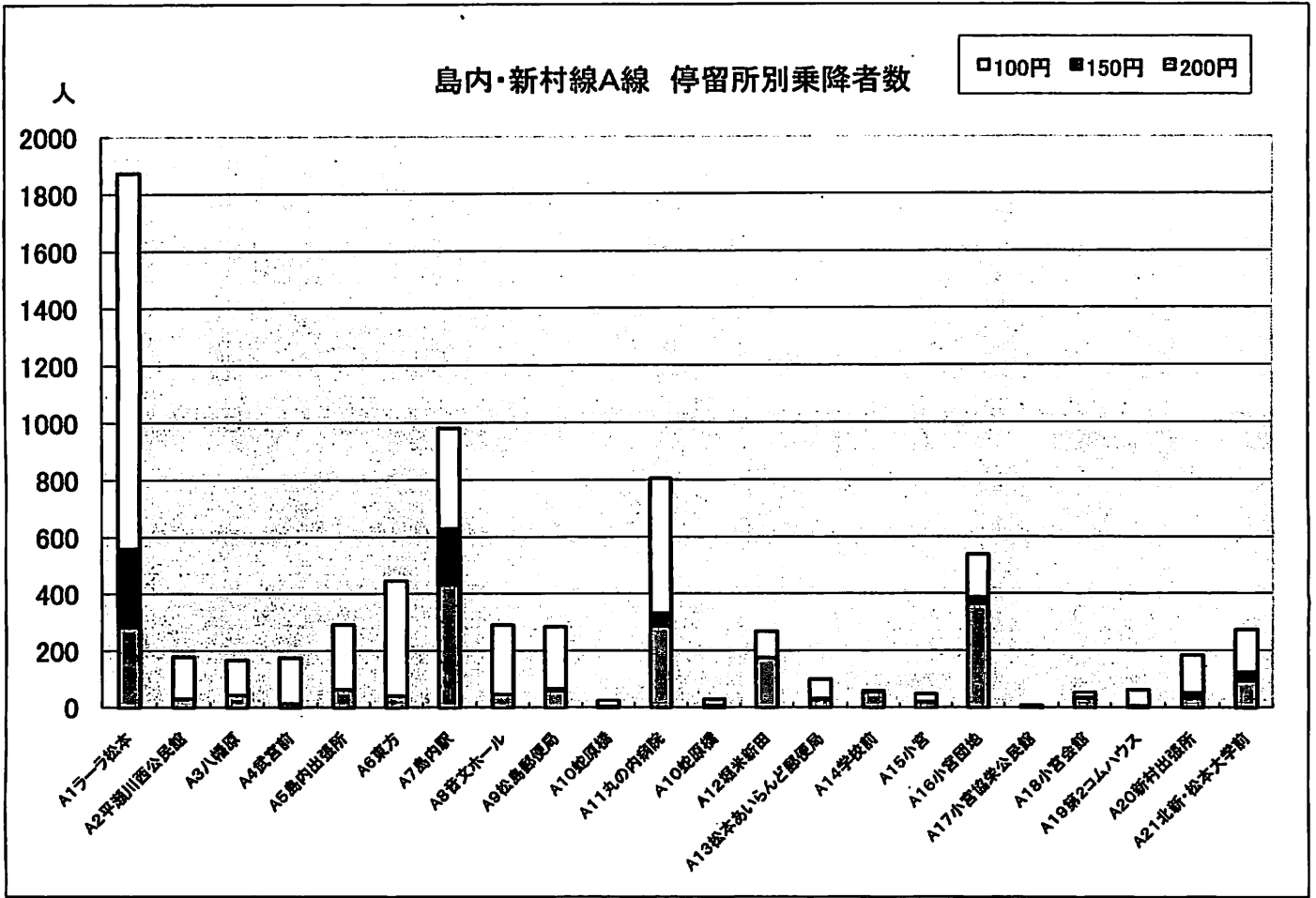
1 平成21年8月3日～平成22年7月30日の利用状況

(1) 月別利用実績

| ルート名 | 島内・新村線A線 | 新村・平田線B線 | 梓川・和田線C線 | 和田・村井線D線 | 計 | |
|----------|----------|----------|----------|----------|--------|---------|
| 運行便数 | 20便/日 | 18便/日 | 14便/日 | 16便/日 | 68便/日 | |
| 利用者数 | 8月 | 629人 | 326人 | 282人 | 317人 | 1,554人 |
| | 9月 | 303人 | 385人 | 196人 | 264人 | 1,148人 |
| | 10月 | 412人 | 364人 | 291人 | 372人 | 1,439人 |
| | 11月 | 443人 | 287人 | 226人 | 311人 | 1,267人 |
| | 12月 | 433人 | 404人 | 272人 | 267人 | 1,376人 |
| | 1月 | 374人 | 292人 | 275人 | 307人 | 1,248人 |
| | 2月 | 394人 | 377人 | 367人 | 372人 | 1,510人 |
| | 3月 | 579人 | 345人 | 347人 | 488人 | 1,759人 |
| | 4月 | 517人 | 427人 | 334人 | 431人 | 1,709人 |
| | 5月 | 470人 | 343人 | 253人 | 404人 | 1,470人 |
| | 6月 | 536人 | 350人 | 299人 | 472人 | 1,657人 |
| | 7月 | 518人 | 388人 | 323人 | 450人 | 1,679人 |
| | 合計 | 5,608人 | 4,288人 | 3,465人 | 4,455人 | 17,816人 |
| 1 便り利用者数 | 8月 | 1.26人 | 0.72人 | 0.81人 | 0.79人 | 0.91人 |
| | 9月 | 0.66人 | 0.93人 | 0.61人 | 0.72人 | 0.73人 |
| | 10月 | 0.79人 | 0.78人 | 0.80人 | 0.89人 | 0.81人 |
| | 11月 | 0.96人 | 0.69人 | 0.70人 | 0.85人 | 0.81人 |
| | 12月 | 0.94人 | 0.98人 | 0.84人 | 0.73人 | 0.88人 |
| | 1月 | 0.81人 | 0.71人 | 0.85人 | 0.83人 | 0.80人 |
| | 2月 | 0.86人 | 0.91人 | 1.14人 | 1.01人 | 0.97人 |
| | 3月 | 1.11人 | 0.74人 | 0.95人 | 1.17人 | 0.99人 |
| | 4月 | 1.03人 | 0.95人 | 0.95人 | 1.08人 | 1.01人 |
| | 5月 | 0.98人 | 0.79人 | 0.75人 | 1.05人 | 0.90人 |
| | 6月 | 1.03人 | 0.75人 | 0.82人 | 1.13人 | 0.94人 |
| | 7月 | 1.00人 | 0.83人 | 0.89人 | 1.08人 | 0.95人 |
| | 平均 | 0.96人 | 0.81人 | 0.84人 | 0.95人 | 0.89人 |
| 1日平均利用者数 | 19.1人 | 14.6人 | 11.8人 | 15.2人 | 60.8人 | |



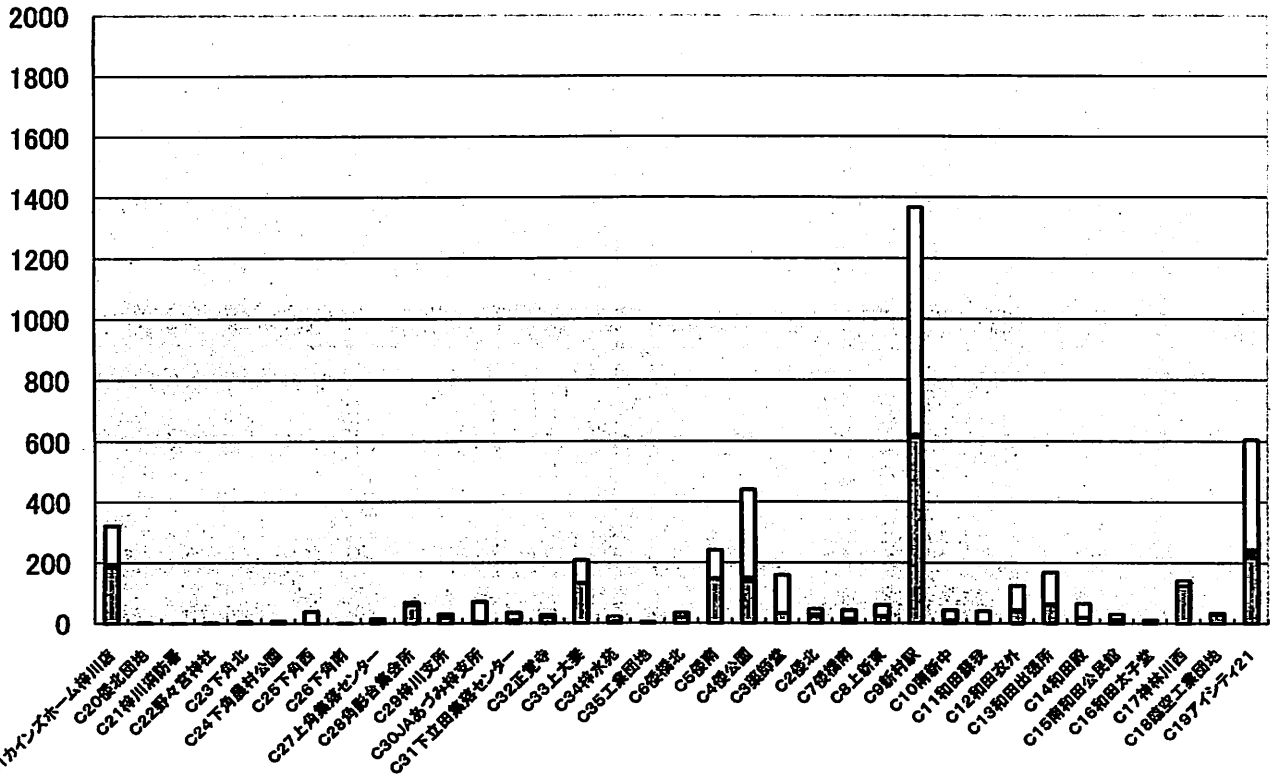




梓川・和田線C線 停留所別乗降者数

□100円 ■150円 ▨200円

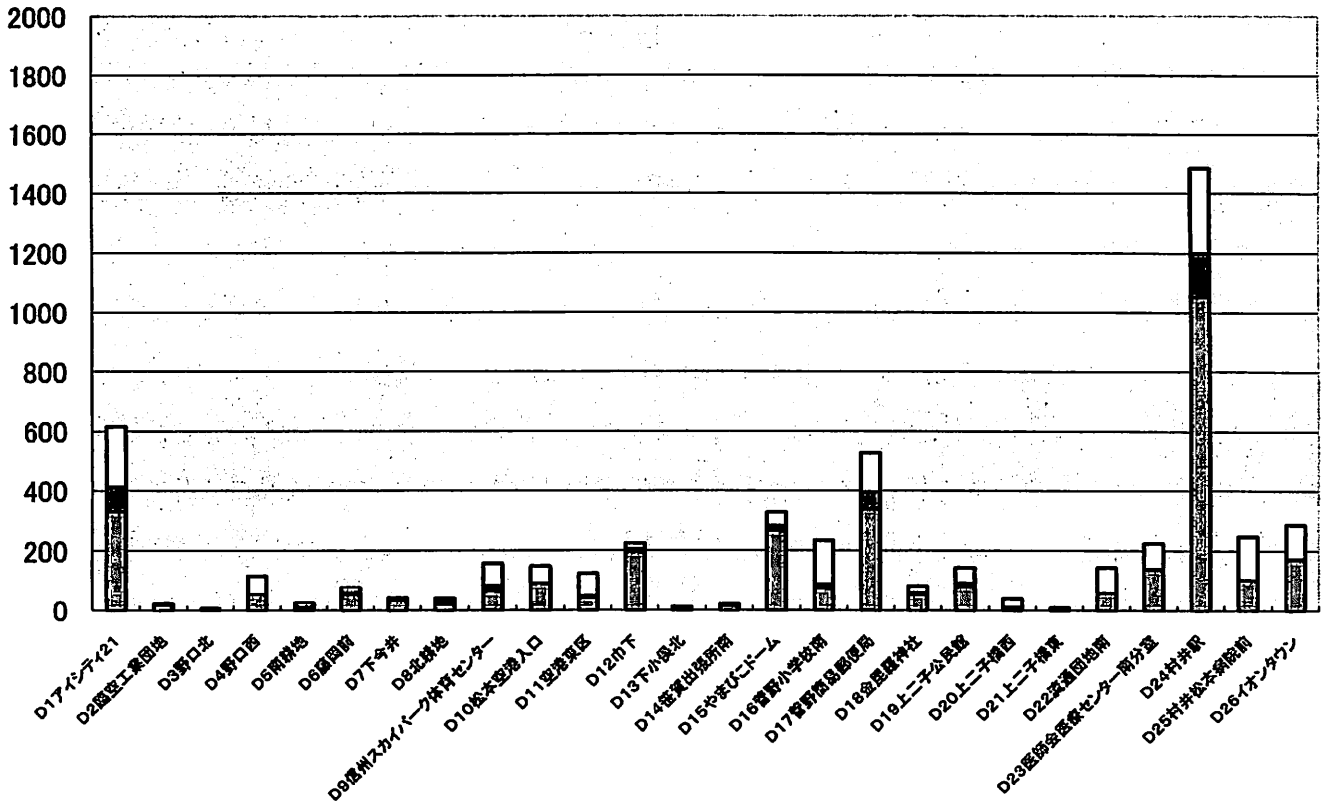
人



和田・村井線D線 停留所別乗降者数

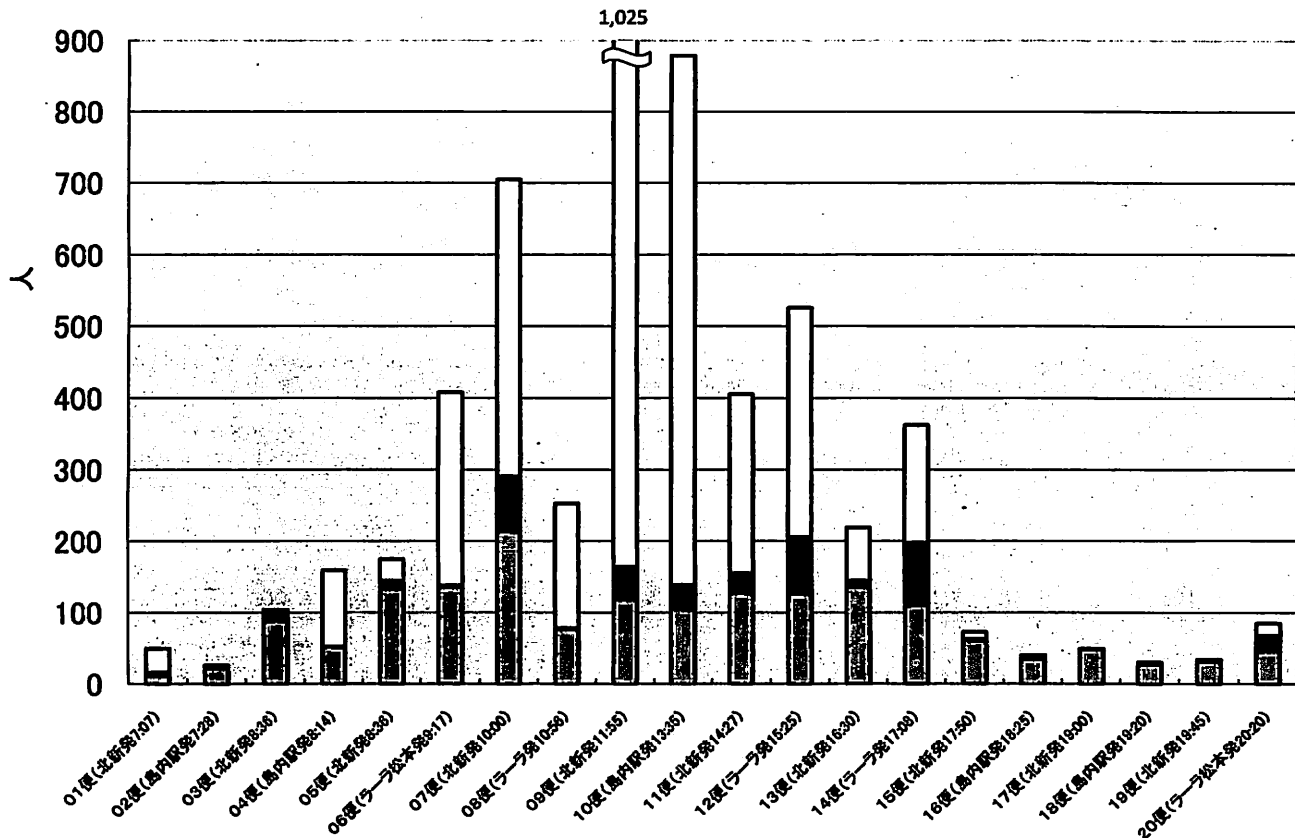
□100円 ■150円 ▨200円

人



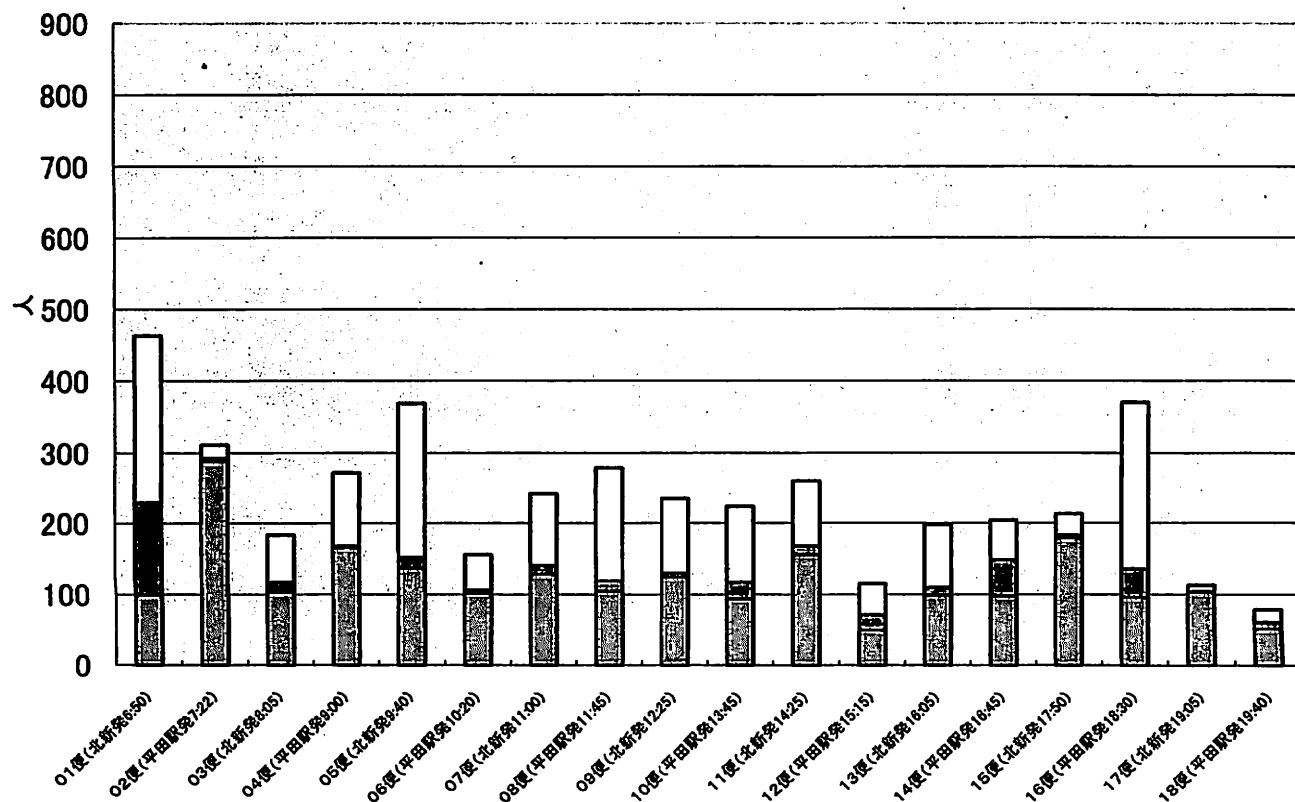
島内・新村線 A線 便別利用者数

□100円 ■150円 ▨200円



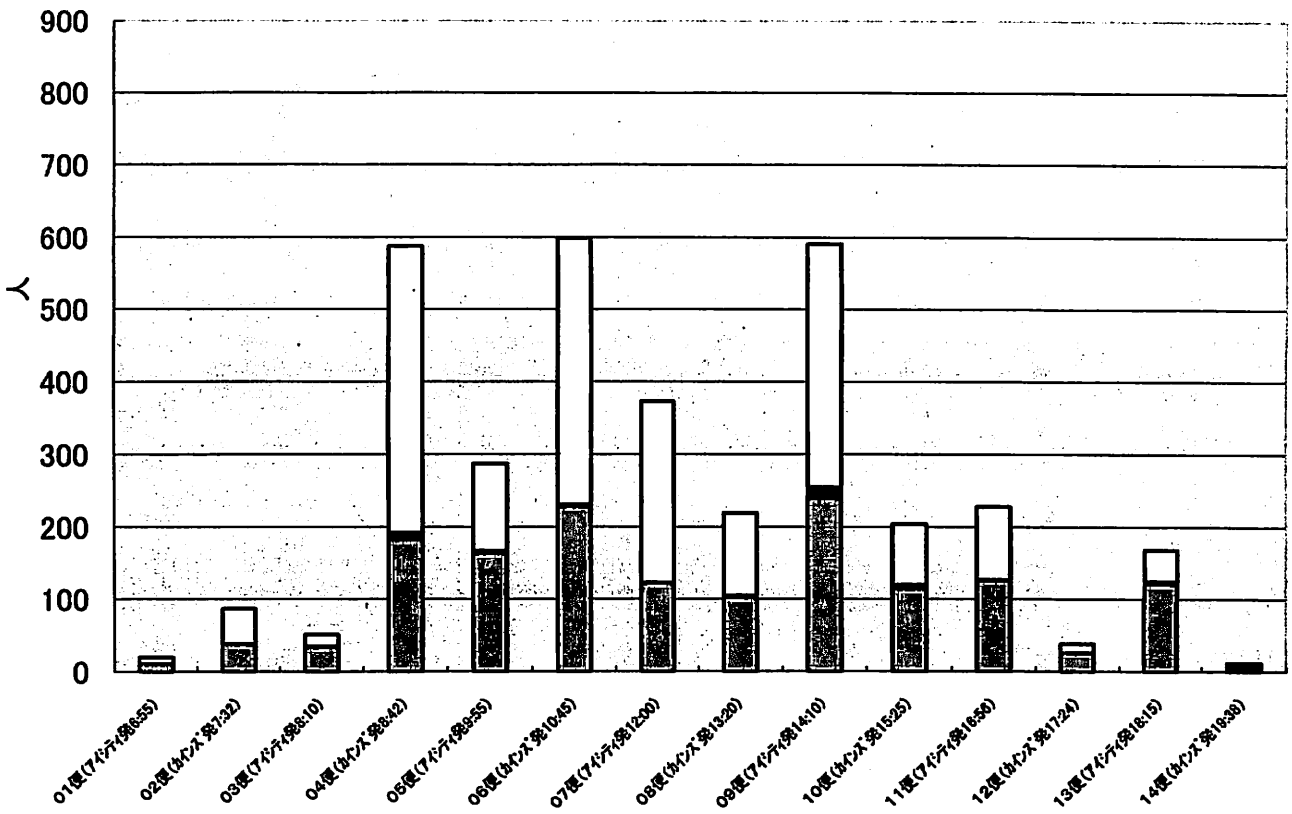
新村・平田線 B線 便別利用者数

□100円 ■150円 ▨200円



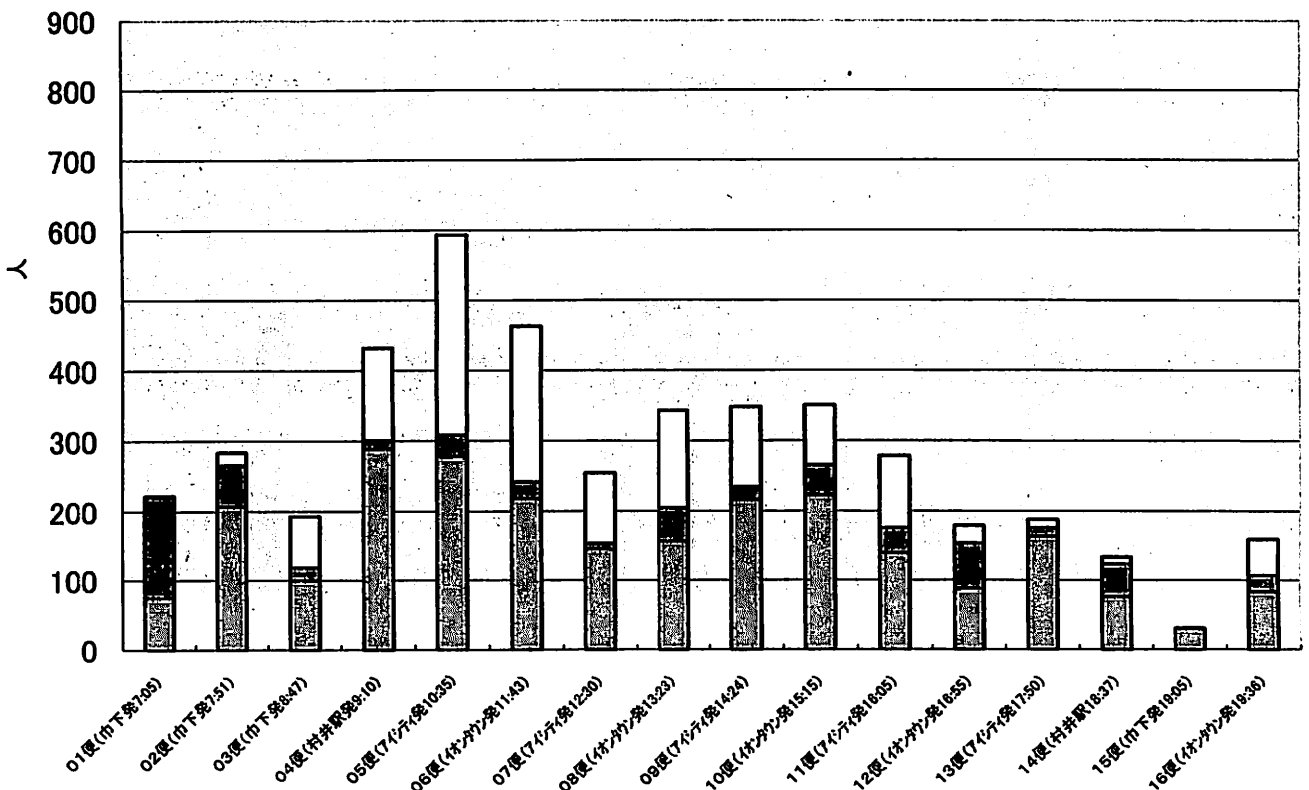
梓川・和田線 C線 便別利用者数

□100円 ■150円 □200円



和田・村井線 D線 便別利用者数

□200円 ■150円 □100円



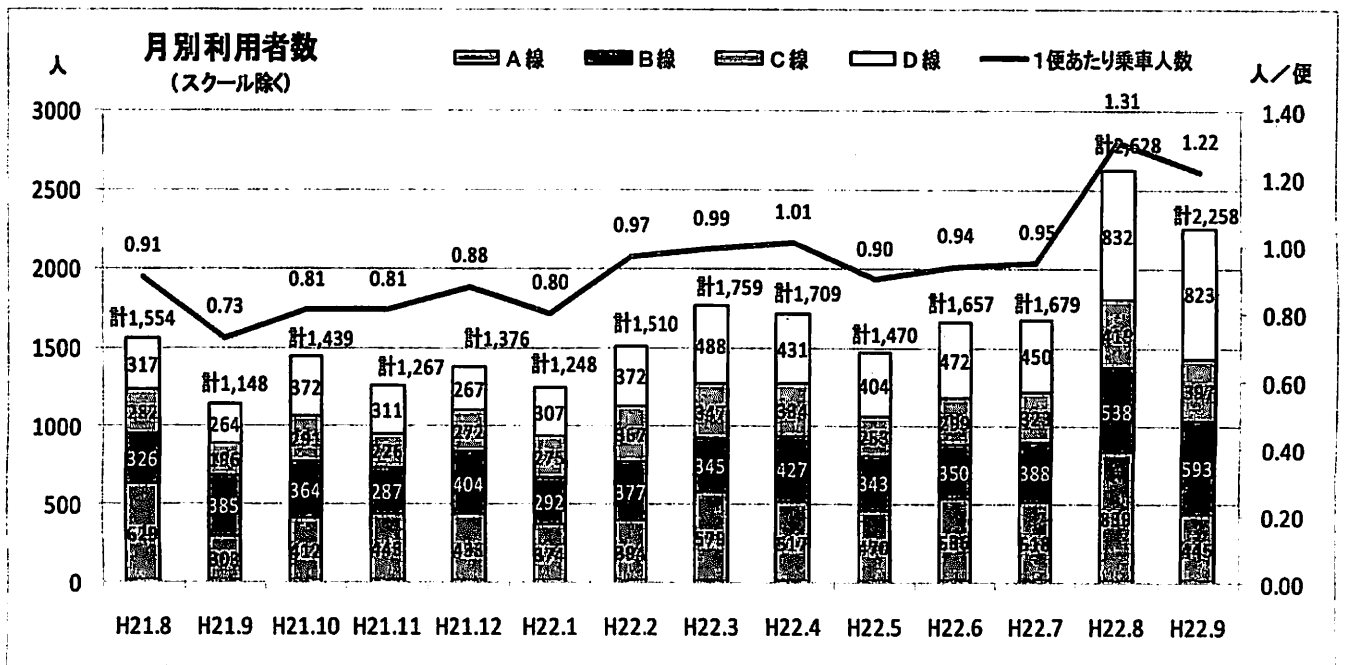
2 平成22年8月2日～9月30日の利用状況

(1) 月別利用状況

| ルート名 | | 島内・新村線A線 | 新村・平田線B線 | 梓川線C線 | 新村・村井線D線 | 計 |
|----------------|----|-----------------------|-----------------------|------------------------|----------------------|---------------------------|
| 運行便数 | | 19便/日 (20) | 24便/日 (18) | 15便/日 (14) | 19便/日 (16) | 77便/日 (68) |
| 利用者数 | 8月 | 839人 (629) | 538人 (326) | 419人 (282) <700> | 832人 (317) | 2,628人 (1,554) <2,909> |
| | 9月 | 445人 (303) | 593人 (385) | 397人 (196) <969> | 823人 (264) | 2,258人 (1,148) <2,830> |
| | 合計 | 1,284人 (932) | 1,131人 (711) | 816人 (478) <1,669> | 1,655人 (581) | 4,886人 (2,702) <5,739> |
| 1便当り 利用者数 | 8月 | 1.70人 (1.26) | 0.86人 (0.72) | 1.07人 (0.81) <1.79> | 1.68人 (0.79) | 1.31人 (0.91) <1.45> |
| | 9月 | 0.98人 (0.66) | 1.03人 (0.93) | 1.10人 (0.61) <2.69> | 1.80人 (0.72) | 1.22人 (0.73) <1.53> |
| | 合計 | 1.35人 (0.97) | 0.94人 (0.82) | 1.09人 (0.71) <2.23> | 1.74人 (0.76) | 1.27人 (0.83) <1.49> |
| 1日当り平均利用者 数 | | 25.7人 (19.4) | 22.6人 (14.8) | 16.3人 (10.0) <33.4> | 33.1人 (12.1) | 97.7人 (56.3) <114.8> |
| 運賃収 入 | 8月 | 115,050円 (91,200) | 57,600円 (53,600) | 48,050円 (40,400) | 115,000円 (51,400) | 335,700円 (236,600) |
| | 9月 | 55,400円 (44,650) | 63,550円 (62,450) | 42,400円 (25,950) | 108,300円 (43,050) | 269,650円 (176,100) |
| | 合計 | 170,450円 (135,850) | 121,150円 (116,050) | 90,450円 (66,350) | 223,300円 (94,450) | 605,350円 (412,700) |

()内の数字は、昨年の実証運行の実績 < >内の数字は、スクール利用を入れた数字

(2) 利用の推移



(3) 利用状況の特徴 詳細は別紙 1

ア 昨年同月における全体の利用状況

- (ア) 1便あたりの利用状況は約5割増加しており、ルート等の見直し及びポイントカード等の利用促進策による、一定の効果が得られた。
- (イ) 特に新村・村井線D線については、1便あたりの利用状況は2倍以上に増加しており、利用の定着化が図られつつある。

イ バス停の利用状況

昨年利用されていた停留所については、引き続き利用が見られており、全体的に大きな変化はないが、新村・平田線B線「神林出張所」バス停や、新村・村井線D線「今井小学校」～「山形村役場」間など、新しく変更したルートにおいても、一定の利用が見られた。

ウ 便別の利用状況

昨年の利用状況と大きな変化はないが、島内・新村線A線以外は、通勤・通学の利用が増加した。特に中高生（150円利用）の利用も増加傾向が見られる。

エ その他

- (ア) 回数券、ポイントカード、フリー降車等新しいサービスについても一定の利用が見られた。

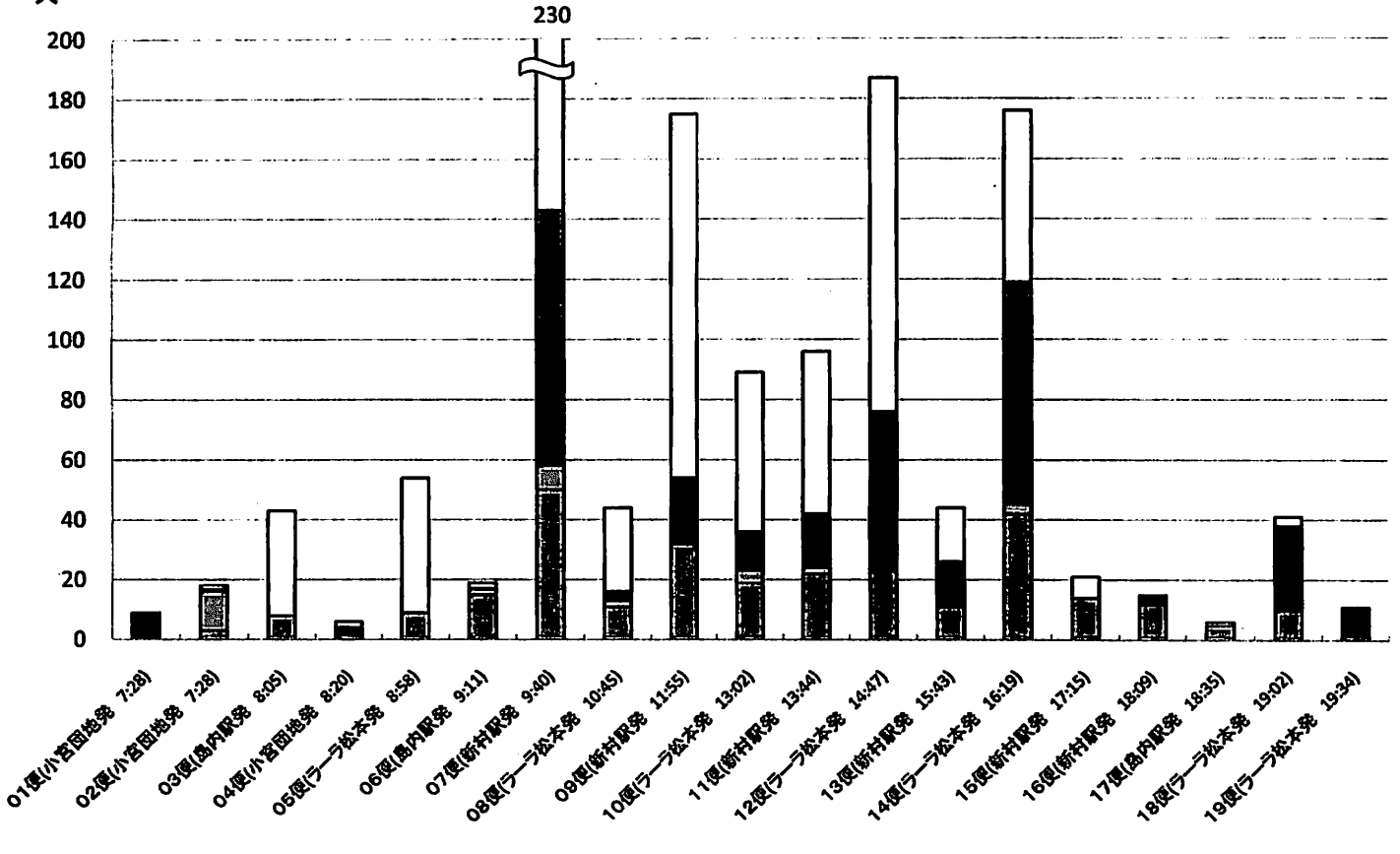
(イ) 利用実績

| 項目 | 利用実績 | |
|-------------|-----------|--|
| | 8月 | 45冊 |
| 回数券販売数 | 9月 | 35冊 |
| | 計 | 80冊 |
| | 8月 | 5件（とをしや薬局） |
| ポイントカード交換件数 | 9月 | 10件（とをしや薬局9件、ラーラ松本1件） |
| | 計 | 15件 |
| | フリー降車利用状況 | 概ね停留所により降車しているが、約1割の利用者がフリー降車を利用。（タクシー事業者聴き取り） |

- (ウ) 市のエコ通勤に係る利用状況については、今後実施を予定している聴き取り調査等を通じて利用の状況を把握する予定。

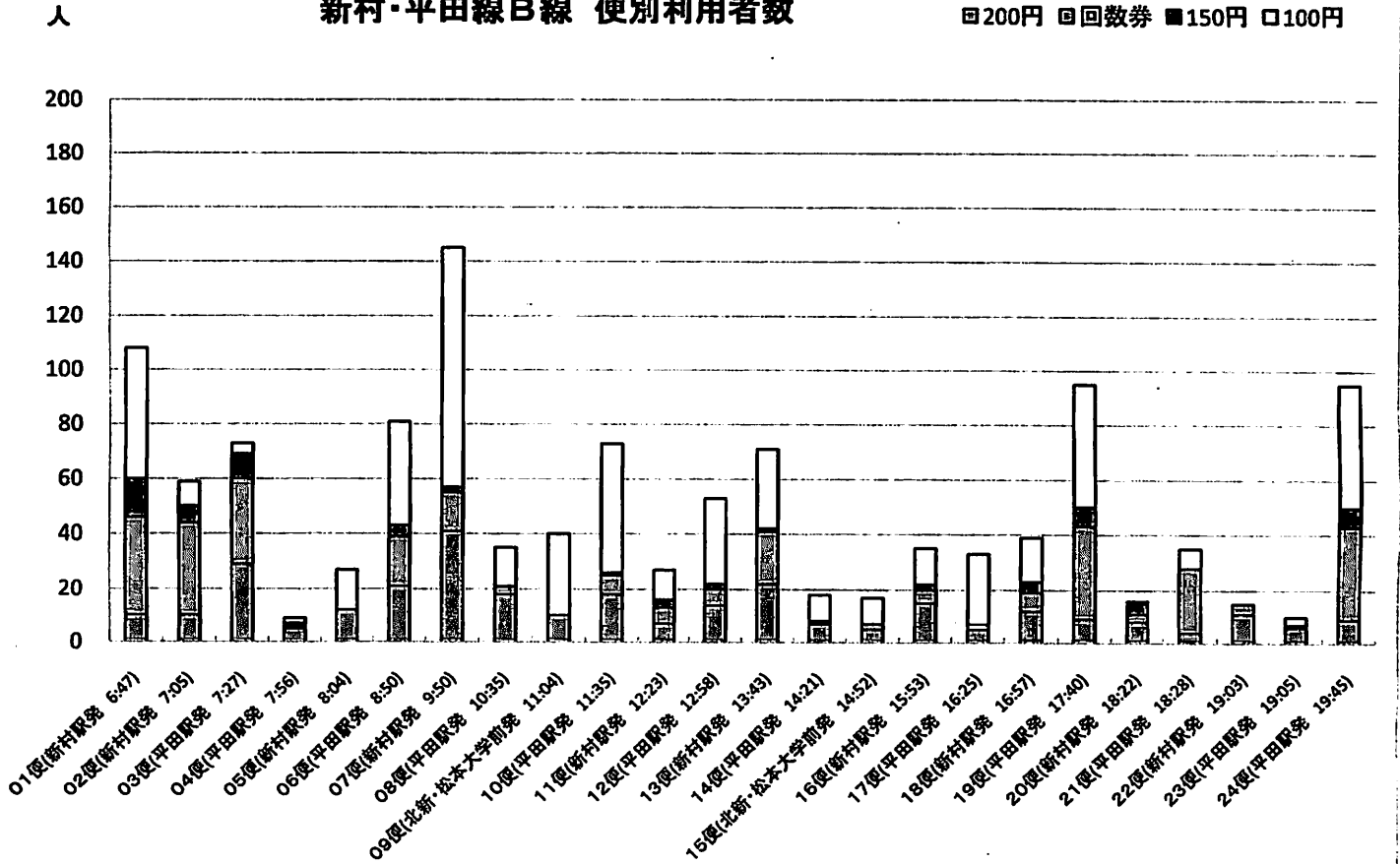
島内・新村線A線 便別利用者数

■ 200円 □ 回数券 ■ 150円 □ 100円



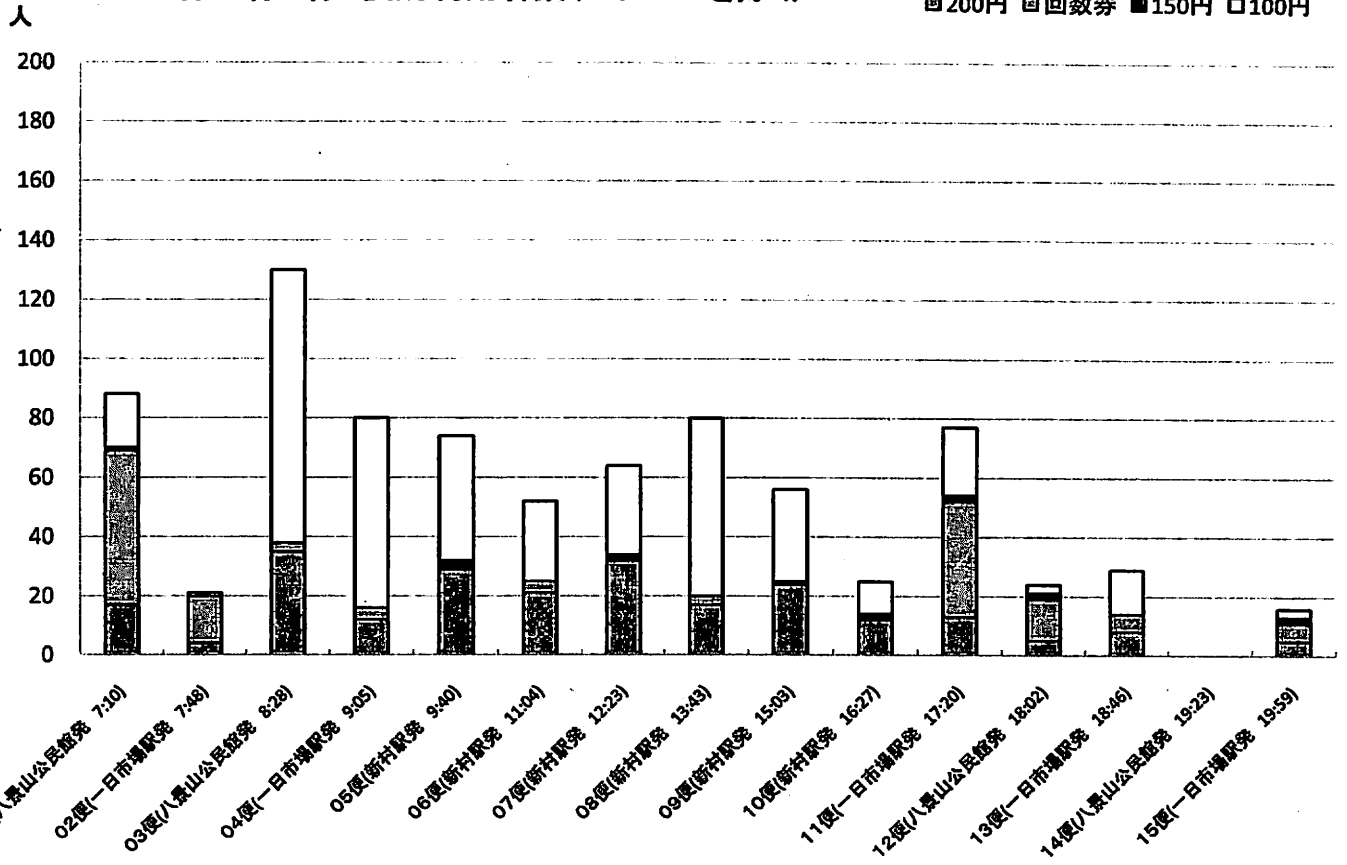
新村・平田線B線 便別利用者数

■ 200円 □ 回数券 ■ 150円 □ 100円



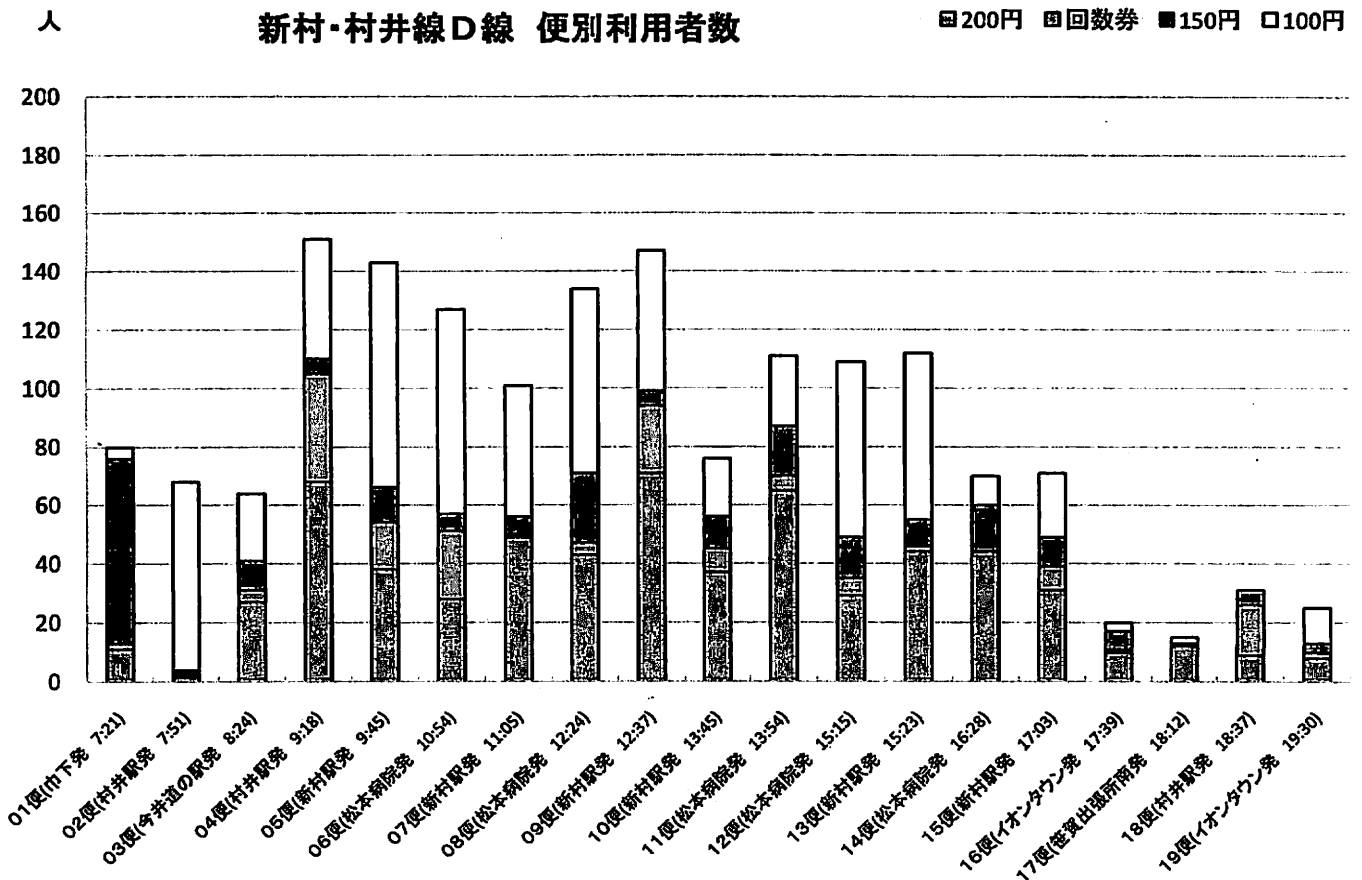
梓川線C線 便別利用者数(スクールを除く)

■ 200円 ■回数券 ■150円 □100円



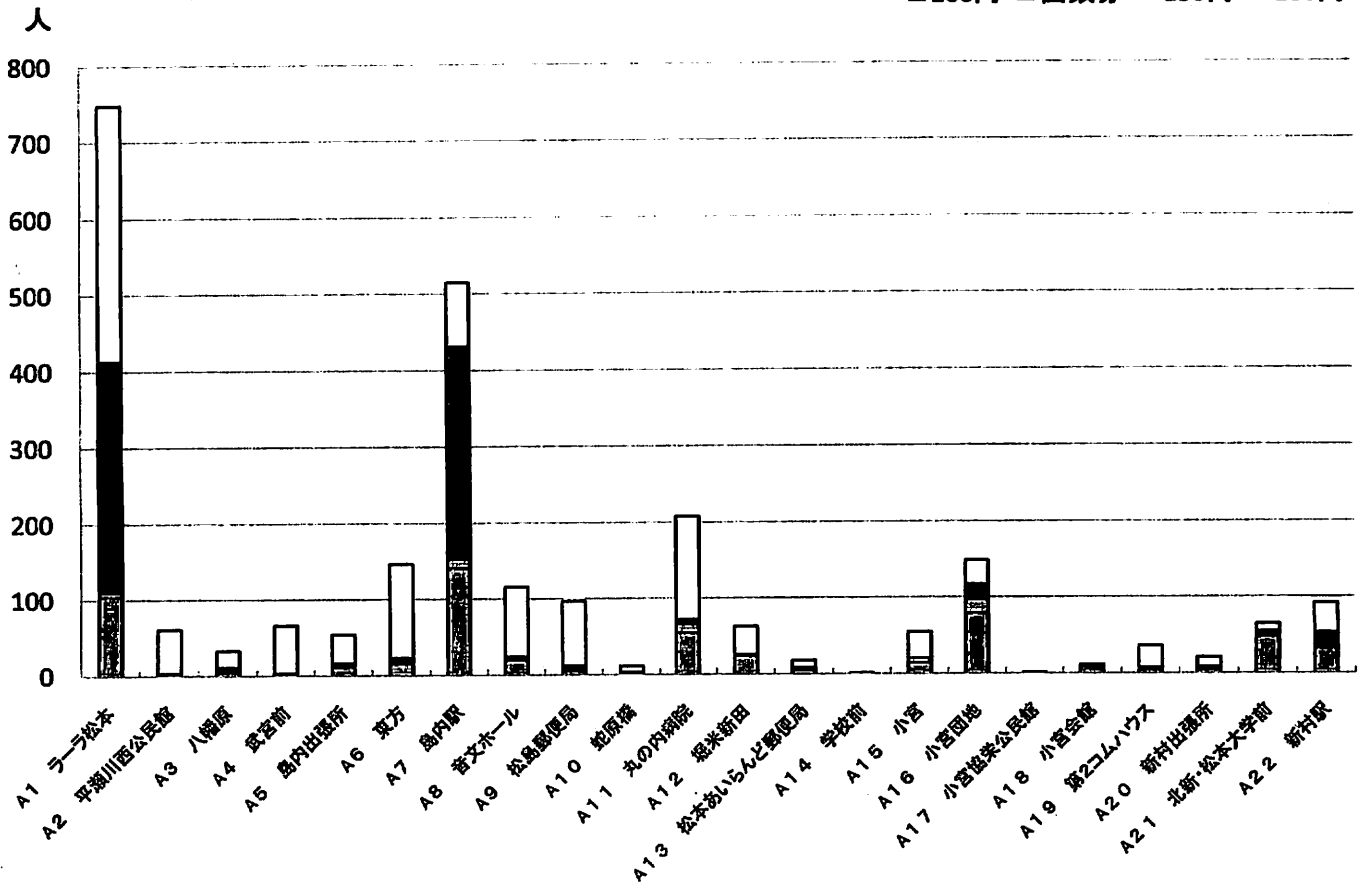
新村・村井線D線 便別利用者数

■ 200円 ■回数券 ■150円 □100円



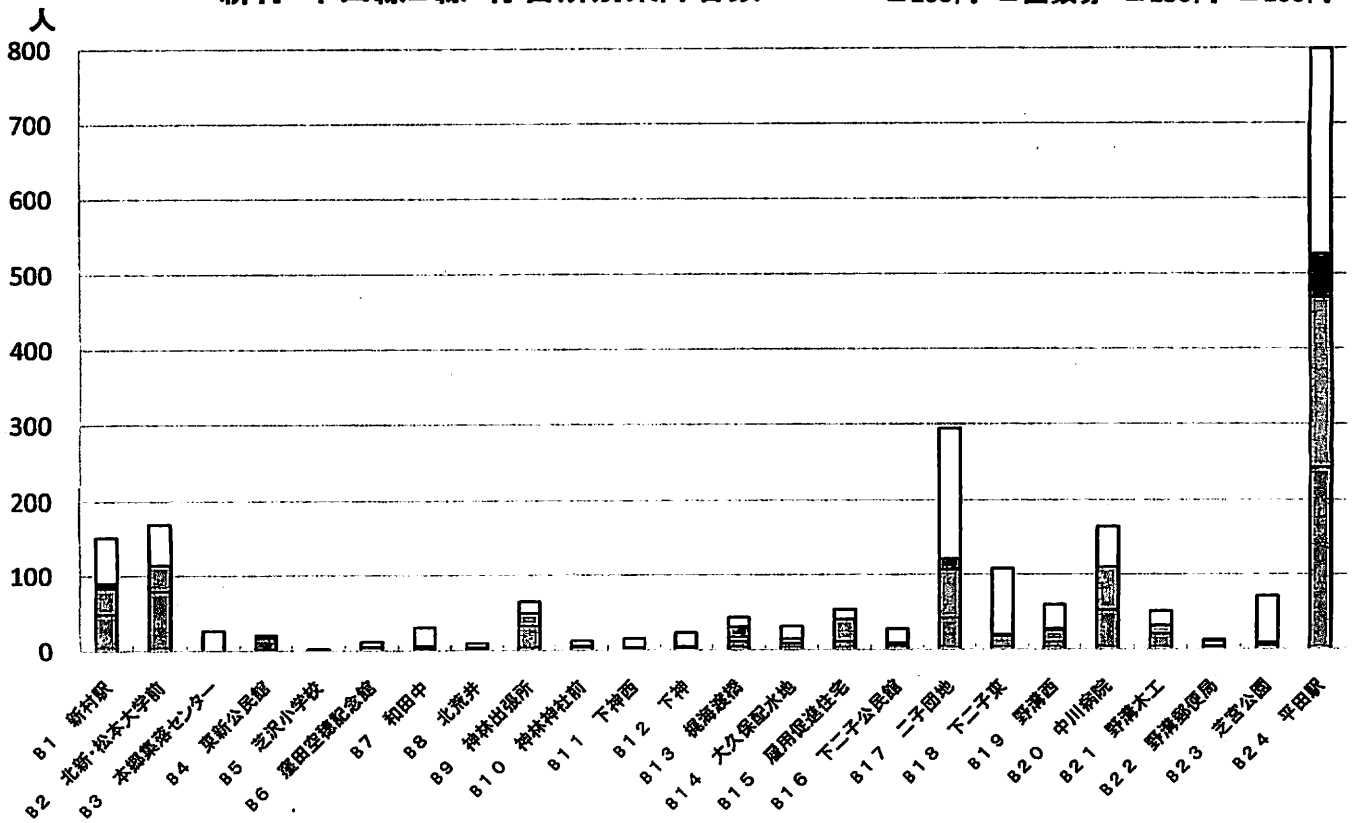
島内・新村線A線 停留所別乗降者数

■ 200円 □ 回数券 ■ 150円 □ 100円



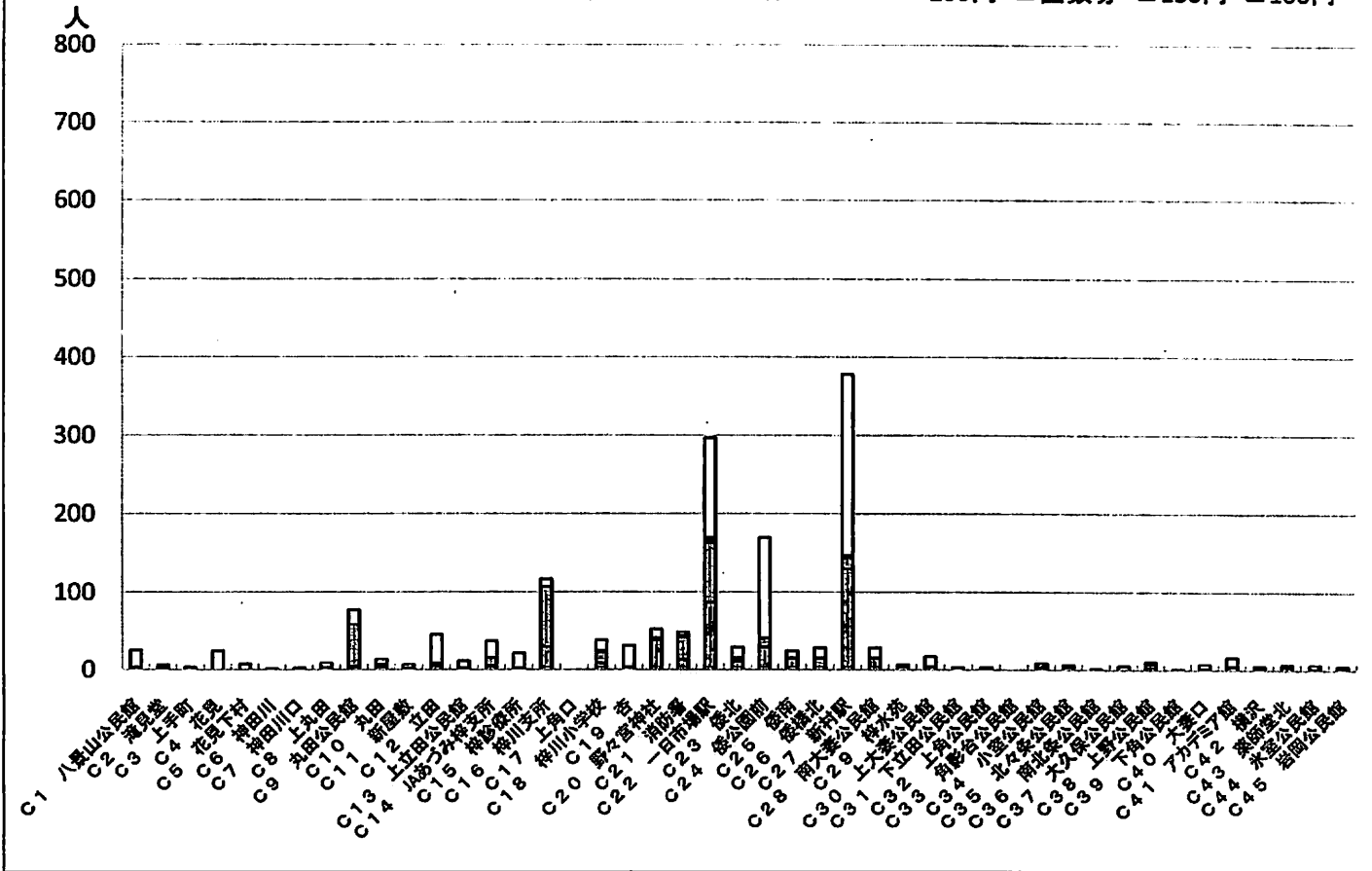
新村・平田線B線 停留所別乗降者数

■ 200円 □ 回数券 ■ 150円 □ 100円



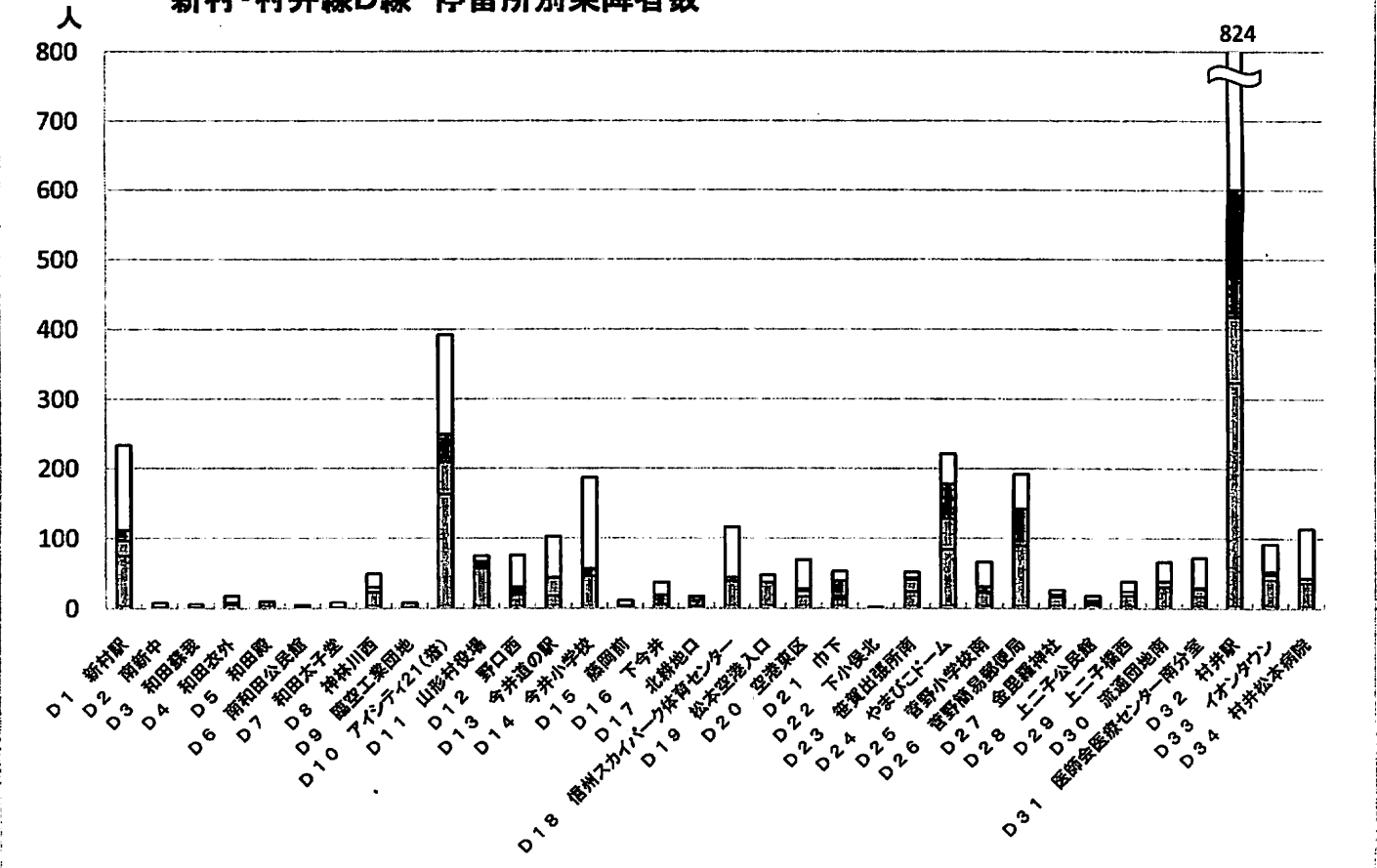
梓川線C線 停留所別乗降者数(スクールを除く)

■ 200円 □回数券 ■ 150円 □ 100円



新村・村井線D線 停留所別乗降者数

■ 200円 □回数券 ■ 150円 □ 100円



| | 全体の利用状況 | バス停の利用状況 | 便別の利用状況 |
|------------------|---|---|---|
| 島内・ 新村線 A線 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間中、小学生及び中高生等がラウラ松本まで移動するのに多く利用された。 ・1便あたりの利用者数は、前年に比べ1.39倍となり、利用は増加した。 ・回数券の利用はあまりない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の利用状況と大きな変化はない。ラウラ松本が最も高く、次いで島内駅、丸の内病院と、小宮団地となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の利用状況と大きな変化はなく、昼間の利用が中心となっている。 ・通勤、通学の利用はほとんど見られない。 |
| 新村・ 平田線 B線 | <ul style="list-style-type: none"> ・1便あたりの利用者数は、前年に比べ1.15倍と若干増加したものの、4線では一番少ないが、9月以降徐々に増加傾向にある。 ・回数券の利用者が最も多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の利用状況と大きな変化はない。平田駅の利用が最も高く、次いで二子団地、新村駅、北新・松本大学前、中川病院となっている。 ・新しくルートを延伸した新村駅、神林出張所の利用も比較的に見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の利用状況と大きな変化はなく、満遍なく利用が見られるが、使われる便と使われない便の差が表れてきた。 ・通勤、通学での利用も見られる。 |
| 梓川線 C線 | <ul style="list-style-type: none"> ・1便あたりの利用者数は、前年に比べ1.53倍に増加した。 ・朝、夕の通勤の時間帯に回数券の利用が見られる。 ・朝の便については、スクールの混乗化を実施したが特に支障は生じなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新村駅、一日市場駅が最も多く、次いで倭公園前、梓川支所となっている。 ・小室方面、氷室方面の利用は少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年は昼間の利用が中心であったが、満遍なく利用が見られるようになった。 ・通勤、通学での利用も見られる。 |
| 新村・ 村井線 D線 | <ul style="list-style-type: none"> ・1便あたりの利用者数は、前年比2.29倍と大幅に増加しており、利用の定着化が最も図られつつある路線である。 ・昼間を中心に回数券の利用が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の利用状況と大きな変化はない。村井駅の利用が最も多く、次いでアイシティ、やまびこドーム、新村駅、菅野簡易郵便局となっている。 ・やまびこドーム、信州スカイパーク体育センターの利用は、前年に比べ若干増加した。 ・新しくルートを延伸した今井小学校、今井道の駅、山形村役場、新村駅の利用は比較的に見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の利用状況と大きな変化はなく、昼間の利用の他、朝、夕の利用も比較的に見られる。 ・通勤、通学での利用が見られる。特に中高生の通学の利用が多い。 |

安曇・奈川・波田地区住民の移動実態調査結果及び 今後の進め方について

1 趣旨

安曇・奈川・波田地域の住民の移動実態、公共交通に対する意識等を把握するためのアンケート調査を実施しましたので、調査結果の概要を報告し、今後の進め方を協議するものです。

2 経過

- H22. 6. 25 第12回交通協議会開催（アンケートの調査内容について協議）
 7. 15 第13回交通協議会開催（アンケート調査の実施を決定）
 7. 30～8. 31 アンケート調査実施（町会組織を通じて配布・回収）
 9. 1～ アンケートの集計・分析

3 移動実態調査結果の概要（詳細は別冊資料のとおり）

（1）配布数及び回収数

| 配布地区 | 配布世帯数 | 有効回収数 | 地区別回収数 |
|------|--------|--------|--------|
| 安曇地区 | 714部 | 419部 | 58.7% |
| 奈川地区 | 378部 | 233部 | 61.6% |
| 波田地区 | 4,675部 | 3,457部 | 73.9% |
| 不明 | — | 100部 | — |
| 合計 | 5,767部 | 4,209部 | 73.0% |

※1通の調査票へ5人までの回答ができることから、回答者総数は9,077人。

（2）結果内容

ア 移動実態について

（ア）交通不便者の属性

- ・回答者の約2割が交通不便者。
- ・交通不便者の多くが高齢者または高校生

| | 交通不便者 | 交通非不便者 | 合計 |
|------|--------------|--------------|---------------|
| 安曇地区 | 178(22.2%) | 623(77.8%) | 801(100.0%) |
| 奈川地区 | 86(22.5%) | 297(77.5%) | 383(100.0%) |
| 波田地区 | 1,443(19.0%) | 6,160(81.0%) | 7,603(100.0%) |
| 合計 | 1,707(19.4%) | 7,080(80.6%) | 8,787(100.0%) |

- ※ 公共交通不便者：自由に使える交通手段として、自動車やバイク等を所有していない人
 // 非不便者：自由に使える交通手段として、自動車やバイク等を所有している人

(イ) 交通不便者の移動実態

| | | 安曇地区 | 奈川地区 | 波田地区 |
|-------|------------------|---|---|---|
| 地域内移動 | | ・少なく、かつ、分散している。 移動先：安曇支所周辺 | ・比較的に見られるが絶対量が少ない 移動先：奈川支所周辺 | ・多い。50%以上を占めている。 移動先：波田駅・波田総合病院周辺、梓川高校周辺 |
| 地域外移動 | | ・波田地区（波田駅・波田総合病院周辺） ・中心市街地を含むJR篠ノ井線以東（松本駅周辺） | ・波田地区（波田駅・波田総合病院周辺） ・中心市街地を含むJR篠ノ井線以東（松本駅周辺、丸の内病院周辺） | ・中心市街地を含むJR篠ノ井線以東（松本駅周辺、倭公園周辺、丸の内病院周辺） |
| 移動先 | 波田地区 | 61 (41.5%) | 17 (26.6%) | 629 (52.9%) |
| | 中心市街地を含むJR篠ノ井線以東 | 35 (23.8%) | 12 (18.8%) | 281 (23.7%) |
| | 西部地域 | 30 (20.4%) | 10 (15.6%) | 203 (17.1%) |
| | 安曇地区 | 16 (10.9%) | 0 (0.0%) | 9 (0.8%) |
| | 奈川地区 | 5 (3.4%) | 22 (34.3%) | 0 (0.0%) |
| | その他 | 0 (0.0%) | 3 (4.7%) | 65 (5.5%) |
| | 合計 | 147 (100.0%) | 64 (100.0%) | 1,187 (100.0%) |

イ 公共交通等に対する意識

(ア) 公共交通への転換意向

・回答者の約8割が公共交通への転換は現実的でないと回答

| | 度数 (比率) | 度数 (比率) |
|-----------|----------------|----------------|
| とても現実的である | 388 (5.6%) | 1,434 (20.8%) |
| やや現実的である | 1,046 (15.2%) | |
| あまり現実的でない | 2,001 (29.0%) | 5,462 (79.2%) |
| 全く現実的でない | 3,461 (50.2%) | |
| 合計 | 6,896 (100.0%) | 6,896 (100.0%) |

(イ) 公共交通の維持に対する意識

・回答者の約6割が「市民と行政が一緒になって検討し公共交通を維持すべき」と回答。

| | 考え方 | | | | | | 合計 |
|-------|-------------------|---------------|----------------------|--------------|-------------------------|------------|-------|
| | 公共交通がなくなることも仕方がない | 行政が財政負担をすべき | 地域の自治会などが費用の一部を負担すべき | 利用者の負担を多くすべき | 市民と行政が一緒になって負担のあり方を検討する | その他 | |
| 交通不便者 | 92 (7.3%) | 320 (25.2%) | 60 (4.7%) | 23 (1.8%) | 747 (58.9%) | 26 (2.1%) | 1,268 |
| 非不便者 | 664 (10.3%) | 1,220 (18.8%) | 231 (3.6%) | 161 (2.5%) | 4,102 (63.4%) | 97 (1.5%) | 6,475 |
| 合計 | 756 (9.8%) | 1,540 (19.9%) | 291 (3.8%) | 184 (2.4%) | 4,849 (62.5%) | 123 (1.6%) | 7,743 |

ウ 上高地線の利用状況及び現状に対する意識

(ア) 上高地線ひと月あたりの利用回数

・上高地線の利用者の減少は約7割が認識。

| | 交通不便者 | 非不便者 | 合計 |
|------|-------|-------|-------|
| 安曇地区 | 3.34回 | 0.61回 | 1.20回 |
| 奈川地区 | 2.91回 | 0.38回 | 0.94回 |
| 波田地区 | 9.08回 | 1.31回 | 2.74回 |
| 合計 | 8.22回 | 1.22回 | 2.54回 |

(イ) 上高地線の利用状況に対する考え方

・現状について「利用するよう努力すべきだ」(42.3%)と「利用しないことは仕方ない」(46.6%)に分かれる。

| | 利用状況について思うこと | | | | 合計 |
|-------|--------------|--------------|-----------|-----------|-------|
| | 利用するよう努力すべきだ | 利用しないことは仕方ない | その他 | 何も思わない | |
| 交通不便者 | 745(50.8%) | 562(38.3%) | 90(6.1%) | 70(4.8%) | 1,467 |
| 非不便者 | 2,629(40.4%) | 3,157(48.5%) | 549(8.4%) | 175(2.7%) | 6,510 |
| 合計 | 3,374(42.3%) | 3,719(46.6%) | 639(8.0%) | 245(3.1%) | 7,977 |

4 西部地域公共交通総合連携計画(3ヶ年計画)への変更方針について

(1) 連携計画への変更方針

ア 基本的な考え方

現行の連携計画に示している「基本方針」及び「交通空白地帯の解消に関する標準的な考え方」に基づいて地域の実情に配慮した公共交通システムの検討を進めます。

イ 基幹的公共交通としての松本電鉄上高地線

松本電鉄上高地線については、西部地域と中心市街地における重要な公共交通機関であることから、基幹的な公共交通機関として位置づけて維持・活性化に向けた検討を進めます。

(2) 安曇・奈川・波田地区における公共交通整備の方向性

ア 公共交通ネットワークの整備に対する考え方

松本電鉄上高地線、生活路線である稲核線、観光路線である乗鞍線など既存の公共交通を最大限に活かしながら、市営バス奈川線、西部地域コミュニティバスなどが補完する効率的な公共交通ネットワークを検討します。さらに、安曇・奈川地区から松本中心市街地方面へ移動する際の乗り換え回数などを極力減らし、乗り継ぎの少ない公共交通ネットワークになるよう工夫します。

(ア) 移動需要に応じた各地区についての考え方

| | | |
|------------|------|--|
| 移動需要の少ない地域 | 安曇地区 | 安曇地区は地区内移動の需要が少ない地域です。「交通空白地帯解消に関する標準的な考え方」に従い、住民主体の公共交通維持活動を支援しつつ稲核線や乗鞍線など既存公共交通及び福祉輸送を最大限に活用します。 |
| | 奈川地区 | 奈川地区は地区内移動の需要が見られるものの需要量そのものが少ない地域です。安曇地区同様に住民主体の公共交通維持活動を支援しつつ市営バス奈川線、スクールバスのなどの既存公共交通及び福祉輸送を最大限に活用します。 |
| 移動需要の多い地域 | 波田地区 | 波田地区は地区内移動の需要が一定量みられる地域です。コミュニティバス方式による公共交通システムを検討します。 |

(イ) 既存公共交通のネットワーク化

a 松本電鉄上高地線のネットワーク化

連携計画に沿って検討する公共交通は、松本電鉄上高地線の利用が可能となるようネットワーク化を図ります。

b 松本西部地域コミュニティバスのネットワーク化

安曇・奈川・波田地区から西部地域への移動需要が存在していることが本調査の結果確認されました。これら新たな需要に対応するため、西部地域コミュニティバスの現状の利用者の利便性を維持しつつ、安曇・奈川・波田地区住民の利用が可能となるようネットワーク化を図ります。

イ 松本電鉄上高地線に対する考え方

(ア) 松本電鉄上高地線の現状

モータリゼーション化、少子化等により松本電鉄上高地線は危機的状況におかれています。しかし、上高地線は現在でも通勤・通学、買物・通院等、地域住民の生活の足として幅広く活用されており、これら住民の「生活確保」のためには必要不可欠な公共交通といえます。

(イ) 松本電鉄上高地線を維持・存続していくための対策

松本電鉄上高地線維持・活性化に関する事業を連携計画に追加し、評価・検証を重ね、パークアンドライド事業などの取組みにより、利便性の高い地域公共交通として育て、効率的な地域の足を確保することを目指します。

(3) 今後のスケジュール

- 2 2. 1 1 末 連携計画原案作成
- 1 2 上旬 第 1 5 回西部協議会
- 1 2 中旬～ 2 3. 1 中旬 パブリックコメント実施
- 2 3. 2 連携計画策定予定

(参考)

西部地域公共交通総合連携計画 基本方針等

基本方針1：既存公共交通を最大限活用します。

基本方針2：既存公共交通を補完する公共交通を整備します。

基本方針3：一定量の移動需要のある交通空白地帯の解消に努めます。

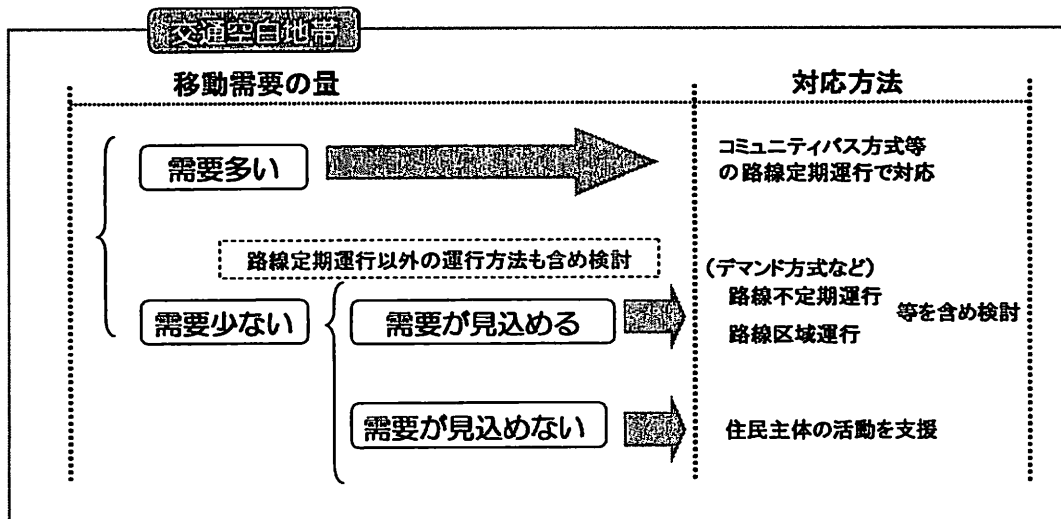
基本方針4：運行の継続にあたっては採算性など一定の基準を設けます。

基本方針5：公共交通の課題解決に向けた住民の主体的な活動を支援します。

基本方針6：ハード・ソフト両面による公共交通の利用促進を積極的に進めます。

●交通空白地帯の解消に関する標準的な考え方

移動需要が存在する交通空白地帯において、移動需要に応じたシステムの整備を進める。また、移動需要が少ない交通空白地帯については、地域住民自らが主体となって、地域固有の交通課題の解決に向けた取組みについて、積極的に支援する。



第5回住民意見交換会の実施について

1 目的

平成22年8月からルート・ダイヤを変更し実施している実証運行に関して、地域住民の皆さんから直接意見・要望を伺い、課題等を整理するために、実際の運行事業者等を交えて意見交換会を開催するもの。

2 開催時期

11月11日（木）～26日（金）

3 開催場所等

(1) 西部地域の9地区においてそれぞれ意見交換会を開催。

(2) 開催日時等

| 対象地区 | 開催日 | 開催時間 |
|------|-----------|-----------|
| 神林地区 | 11月11日（木） | 午後2時30分 |
| 島内地区 | 11月12日（金） | 午前11時から |
| 芳川地区 | 11月15日（月） | 午後2時から |
| 笹賀地区 | 11月15日（月） | 午後7時から |
| 島立地区 | 11月16日（火） | 午後6時30分から |
| 新村地区 | 11月16日（火） | 午後7時から |
| 和田地区 | 11月18日（木） | 午後7時から |
| 梓川地区 | 11月25日（木） | 午後7時から |
| 今井地区 | 11月26日（金） | 午後7時から |

4 周知方法

11月1日号の広報まつもとに併せて、全戸または回覧によりチラシを配布。

松本市西部地域コミュニティバス実証運行 住民意見交換会開催

日頃から、西部地域コミュニティバスをご利用いただきありがとうございます。
このコミュニティバスを、より使いやすい交通システムとしていくために、住民の皆さんと懇談を行う住民意見交換会を開催いたします。

普段コミュニティバスを使っている方、また使っていない方のご意見を伺い、今後の見直し等につなげてまいりますので、ぜひご参加いただき、皆さまの貴重なご意見をお寄せください。

コミュニティバスでは、8月から便利な回数券、お得なポイントカードのサービスが始まりました。ぜひご利用ください。

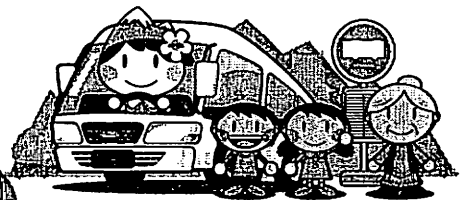
【意見交換会の日程】

| 対象地区 | 開催日 | 開催時間 | 開催場所 |
|------|-----------|-----------|--------------|
| 神林地区 | 11月11日(木) | 午後2時30分 | 神林公民館 |
| 島内地区 | 11月12日(金) | 午前11時から | 島内福祉ひろば |
| 芳川地区 | 11月15日(月) | 午後2時から | 芳川公民館 |
| 笹賀地区 | 11月15日(月) | 午後7時から | 笹賀公民館 |
| 島立地区 | 11月16日(火) | 午後6時30分から | 島立公民館 |
| 新村地区 | 11月16日(火) | 午後7時から | 新村公民館 |
| 和田地区 | 11月18日(木) | 午後7時から | 和田公民館 |
| 梓川地区 | 11月25日(木) | 午後7時から | 梓川支所大会議室 |
| 今井地区 | 11月26日(金) | 午後7時から | 今井農村環境改善センター |

※他の地区の意見交換会にご参加いただくことも可能です。

アンケート調査にご協力ください

コミュニティバスに乗りいただいた方に、11月30日まで、利用状況などの把握をするためにアンケート調査を行っています。ご協力いただいた方には、「アルプちゃん特製ボールペン」または「健康寿命延伸都市・松本ピンバッジ」をプレゼントいたします。



《お問い合わせ先》

松本市政策課・交通政策課

電話 34-3274

FAX 34-3201

E-mail: seisaku@city.matsumoto.nagano.jp

留め置きアンケート調査等の実施について

1 目的

コミュニティバス利用者の詳細な利用実態を把握することで、実証運行に係る課題等を整理するため、留め置きアンケート調査等を実施するもの。

2 対象

コミュニティバス利用者

なお、コミュニティバスを利用していない人からの課題等については、住民意見交換会の中で整理。

3 実施方法

運行するバス車両にアンケート用紙を設置、持ち帰ってから記入してもらう留め置き調査。アンケート期間中は、乗車のたびに回答を依頼。

4 調査期間

10月1日（金）～11月30日（火）まで。

5 回収

次回乗車時にバス運転手へ直接手渡し。

6 粗品の進呈

回答者へ、アルプちゃん特製ボールペン又は健康寿命延伸都市・松本ピンバッジを記念品として進呈。

7 アンケート配布予定数

1,000枚（200枚×4路線・かけもち車両）

8 アンケート用紙

別添のとおり。

9 その他

11月の1週間、調査員が運行する全便に乗車し、利用者から直接聴き取りを行う、聴き取り調査を実施します。

各地区における利用促進の取組み例について

1 利用促進事業の内容等

(1) 趣旨

地域が主体となって利用促進の取組みを行う場合、その経費の一部を協議会から補助を行うもの。

(2) 補助金額

各地区5万円程度で現物支給を実施

(3) 補助対象経費

利用促進に係る、消耗品、印刷費等

2 10月末現在の各地区における利用促進の取組み例

| 地区 | 内容 | 経費 |
|------|--|------------------------|
| 神林地区 | <p>地区住民がコミュニティバスと電車を利用するための時刻表を作成し、8月1日号の広報まつもとに併せて配布。</p> <p>作成部数 B線用1,000枚 D線用1,000枚</p> | <p>用紙代 6,825円</p> |
| 梓川地区 | <p>地区住民がコミュニティバスと電車を利用するための時刻表を作成し、9月1日号の広報まつもとに併せて配布。</p> <p>作成部数 4,000部</p> | <p>印刷代 66,150円</p> |
| 新村地区 | <p>4線全てが利用できる地区であることから、それぞれの路線についての利用例・時刻表を作成し、10月15日号の広報まつもとに併せて配布。</p> <p>作成部数 1,800部</p> | <p>印刷代 59,850円</p> |